

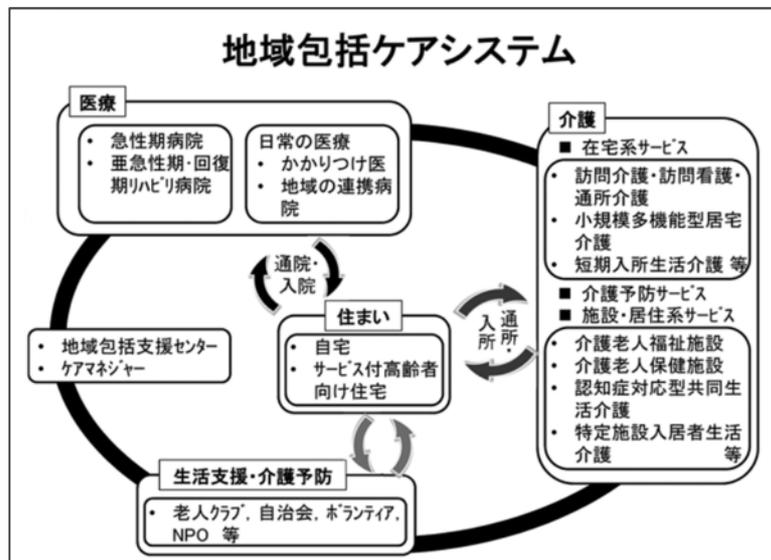
2 基調講演「今なぜ地域包括ケアシステムなのか」

【講師】小林 俊子氏

田園調布学園大学教授。高齢者の生活と福祉、生活の管理と経営、社会福祉論の研究に取り組み、一人ひとりが人間としての尊厳を維持し、生活ニーズに対応したものであるものとしての生活支援とはどのようなものかを、日々追及されている。また、研究にとどまらず、社会活動に積極的に参加され、「宮前区保健福祉まちづくり推進会議」の委員長として、宮前区の地域福祉の推進にご尽力をいただいている。



ただいまご紹介いただきました小林と申します。よろしくお願いいたします。



厚生労働省の地域包括ケアシステムの図を、もっと簡単なものにしました。私たちは、地域で生活をしていく中でさまざまなアクシデントに出遭います。そのアクシデントが解決できれば、住み慣れた地域で顔なじみの人と生活することができます。

アクシデントを解決する方法とは何でしょうか。1つは、私たちが安心できる、シェルターになる住まいが確保できているかということです。宮前区は高齢の方でも持ち家率が高いようですが、そうでない方もいます。自分の家でも借りた家でも、「ここが自分の家だ、裸になれるところだ」と安心できる住まいや、高齢になってから何か不安や心配ごとがあったときにサービスを受けられる高齢者用住宅、障害があっても生活ができる障害者用住宅が、地域に確保されることです。

また、病気になったときや介護を受けるときに、誰に相談すればよいのだろう、どのような場所があるのだろう、という心配がなくなり安心して生活できるようなしくみを作ることが、地域包括ケアシステムとして考えられていることのひとつです。

施設が足りない、介護人員が思うように増えないという課題はありますが、私たちが今考えなければいけないことは、私たちが自宅などの住み慣れたところで生活をしていくためにはどうしたらよいかということだと思います。

地域生活の困りごと

- 食事
- 家事
- 外出
- 健康
- 一時預かり
- 悩みごと相談

地域生活の困りごと 続き

- 社会交流のチャンス
- 福祉用具
- 権利擁護

地域で生活していく上で、困ってしまうことや解決したいことがいくつか出てくると思います。まずは、食事のことです。どのように食事を調達するのか、自分で食べることができなくなったらどうすればよいか。

次に、洗濯や炊事など身の回りの家事のことです。自分でできなくなったら誰が洗濯してくれるだろうか、部屋の電球が切れたら暗いままになってしまうのか、ゴミ出しはどうしたらよいか。

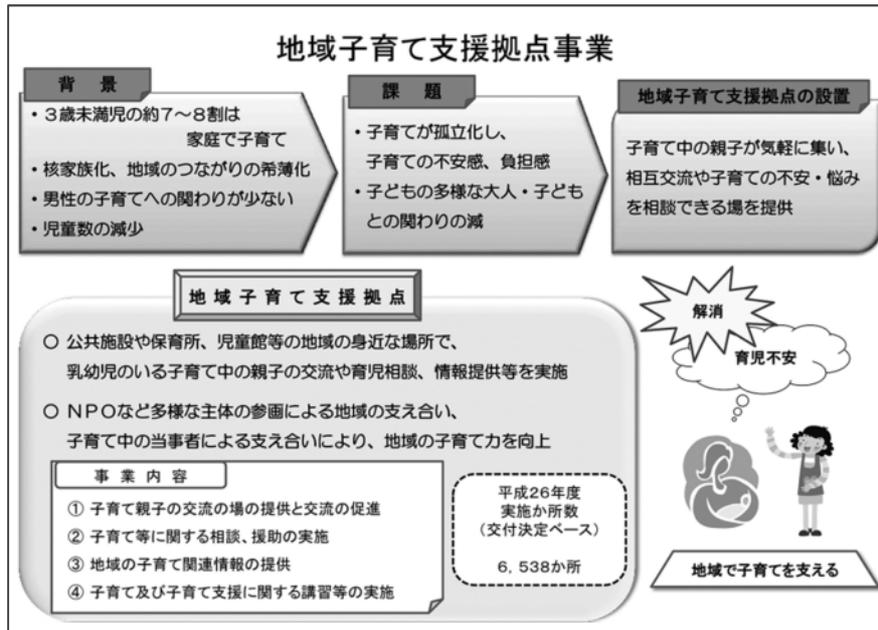
今、高齢者の中でゴミ屋敷が増えています。自分でゴミ出しに行けないことの他に、数年前の川崎市では分別をせずに毎日ゴミ出しができていましたが、分別とゴミ出しの曜日が決められてからはどうしてよいかわからない、誰かに聞こうとしても恥ずかしいし聞く人がいない、いつか娘や息子など頼める人が来たときにしようとして、ゴミがどんどん増えてしまうということもあると思います。

外出のこともそうです。どこかに行きたいが足がない、自分で車の運転は心配。

区長ご挨拶のスライドを見て思い出しましたが、昭和40年代にマイホームを買った人は元気でまだ颯爽と歩くことができました。川崎市は山坂がとても多いところです。歳をとり坂がきつくなってきたことから、出かけられない、荷物を持って歩けない、外に出て転んではいけないのであまり外出しないように言われてしまった、など外出が滞りなくできない心配ごともあります。

また、健康をどうやって維持するか、誰か面倒をみる人がどうしても必要なときの一時預かりをどうすればよいか、心配ごとがあったときの相談先がわからないということもあります。何が自分の悩みごとかわからない、ということもあるかもしれません。

見方を変えてみると、何か活動をしたいがどんなチャンスがあるのか、歩くのが不便になり杖などを使いたいけどどんな種類のものがあるか、自分たちがこれまで築いてきた人間関係や信用、財産をどう守っていったらよいかという困りごともあります。



高齢者と異なる世代について考えてみましょう。厚生労働省の「地域子育て支援拠点事業」の図を引用しています。

核家族化の影響か、最近では子育てに限られた親子関係だけで終結してしまい、育児ノイローゼや親から子どもへの虐待があったり、幼稚園や小学校での子どもの活動する声がうるさいと苦情になってしまうなど、「子育ては地域で次の世代を担う人を育成する」という考えになっていないこともあります。

どうしたら地域の中で安心して子育てができるのか、子どもも子育てをしている親も地域の一員として生活できるのか、そのために考えられたのが「地域子育て支援拠点事業」です。事業内容は「交流の場の提供・交流促進」「子育てに関する相談・援助」「地域の子育て関連情報提供」「子育て・子育て支援に関する講習等」で、これらがスムーズに利用できる関係づくりができれば、育児不安が解消され、「子どもは地域の宝物」として見守られることにより、子どもの非行の減少や子ども同士の関係づくりの改善につながるのではないかとされています。

障害者については、ノーマライゼーションの理念が普及し、ケアマネジメントの考え方が取り入れられるようになってきました。そこで、障害があっても地域で安心して暮らしたい、親元から自立しても暮らせるような支援が欲しい、施設・病院等からの地域移行を推進してほしいが、医療的ケアや行動障害等に対する専門的な支援がなければ地域での生活はしにくい、そのためには医療との連携や地域資源の活用がスムーズに運ばれるようにしなくてはならないし、夜間も利用可能なサービスや緊急時に対応できるような体制が整ってほしい、そうすると障害があっても地域で生活することができる、同時に、障害に応じた施設が整備されていて、いざというときに利用できるような地域社会があったらよいというのが、障害者の望みなのです。

障害者の望み

- 地域で安心して暮らせる
- 親元から自立しても暮らせるような支援
- 施設・病院等からの、地域移行の推進
- 医療的ケア、行動障害等に対する専門的な支援
- 医療との連携等、地域資源の活用
- 夜間も利用可能なサービス、緊急対応体制
- 障害に応じた施設が整備される

視点

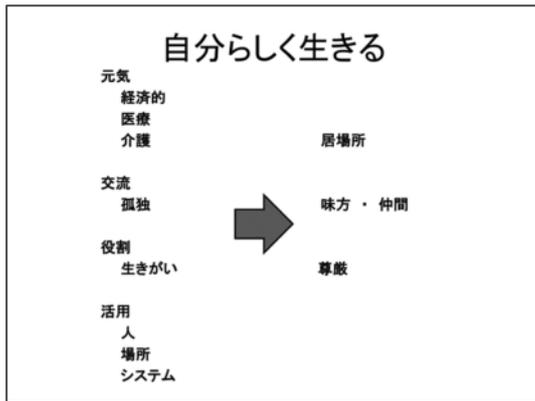
- 人的……………人間関係をめぐる視点
- 物的……………物質的観点および人とモノの関係に見られる視点
- 時間……………生活時間上の視点
- 空間……………生活空間、場所からの視点
- 自立(自助)…自助努力を中心として考えられる本来公助となるべきものではない性質
- 共助(互助)…家族あるいは地域コミュニティで協同で解決できると考えられる
- 公助……………個人の責任でなく、地域全体として地域で解決していく。または公的に考えなくてはならない性質
- 人権……………人として、その人らしく生活していくうえで守られなくてはならない

どのような世代でもどのような状況の人でも生活をしていくことについて、人間関係がどうなのかという人的な視点、物や人との関係、生活時間上の視点として昼間でも夜間でも休日でも必要な対応ができるかどうか、生活空間が十分に保障されているか、これらのことを考えて、自分の力でできること、自分の力をもっと伸ばすことができるチャンス。「自立（自助）」といいます。

「自助」とは自分の力でやることで大変だと考えることもあると思いますが、そうではなく、自分の能力が限りなくあることを信じてそれを伸ばせるチャンスが保証されているシステムであるという視点を考えなければなりません。

「共助（互助）」とは仲間として何かあったときに助け合うことで、昔でいう「結」や現代の保険や互助会という感覚だと思います。お互い様で、私に何かしていただく代わりに、例えばゴミ出しをするついでに他の人のゴミを一緒に持っていくという精神があってもよいのではないかと思います。

今の社会は、健康である程度のお金があるとお互い様の誰かの手助けは必要なく、お金や物で解決できてしまいますが、人間は一人では生きていけないもので、お互いに同じ社会にいるという気付きが必要です。しかし、個人の責任ではなく、地域や公的に考えていかなければならない性質のものもあるのではないのでしょうか。この点を十分考えながら、人として、その人らしく生活していくことが守られなくてはなりません。基本的人権とは、憲法でも保障されていることです。名実ともに保障されて具体化されるようにしなければなりません。



最後に、一人ひとりの区民が自分らしく生きていけることは、経済的にも医療的にも必要な介護を受けているの元気があること、孤独ではなく社会の中で人々との交流があること、交流があるということは人との関係性の中で役割を持つことや生きがいがあること、人・場所・システムが上手に活用されることによって、居場所が確保され、味方や仲間が保障され、尊厳が維持されるのです。これは、介護保険という地域包括ケアシステムではな

く、区民一人ひとりが居場所を持ち、社会の中でいろいろな世代の人と交流をしながら、自分らしく生きていけるようになるシステムで、高齢化が進展する前の今だからこそ、このようなシステムづくりをしなければいけません。

今ならまだ間に合う、そのシステムをお互いに作っていく時期にちょうど差し掛かっているのだと思います。宮前区が開発され始めて半世紀経ち、本当に見違えるような形になってきました。今が、次の半世紀に向けてのスタートとして責任ある地点ではないかと思います。ありがとうございました。

